

第 0 回の意見交換を踏まえて、

研究開発マネジメント業務および人材の現況に関する WG の共通認識

○日本の大学等における研究開発マネジメント力強化の目標と意義：

日本の大学等は、国際的に競争力のあるアカデミアの基盤を確立し、質が高く多様な研究を推進し、イノベーションの源泉となることが求められている。そのためには、研究開発マネジメント力の強化が重要な課題である。

大学等における研究開発マネジメント力を高めるためには、研究開発マネジメントを担う人材の育成と処遇の改善、そして、研究開発マネジメントのエコシステムの構築が必要である。

○個々の大学等における研究開発マネジメントの目的とその在り方：

個々の大学等における研究開発マネジメントにおいては、実施そのものが目的ではなく、それを通じて何を実現したいのか、その目的を明確にする必要がある。大学等の規模や特色、地域性、国際性などにより、その目的と在り方は異なる。したがって、大学等は、自らの強みや特色に応じた適切で柔軟な研究開発マネジメント体制を構築する必要がある。

○研究開発マネジメント業務の拡大：

約 10 年前に作られた「スキル標準」は URA の導入を進める上で研究開発マネジメントに必要となる大学等の業務について整理したものであるが、現在では、大学等で必要な研究開発マネジメント業務は大幅に拡大している。また、こうした業務は互いに関連しており、一つの業務の専門性を追求するだけでなく、全体を俯瞰する視点をもった人材の養成も必要である。

○研究開発マネジメントを担う人材の多様性：

大学等における研究開発マネジメント業務を担う人材は、URA だけでなく、その他専門職、事務職員、技術職員など多様である。それらの人材は、研究者と連携しながら、業務を遂行している。高い専門性ととも、アカデミアはもとより様々なステイクホルダーと協働する広い社会性を有し、そして、尊厳と誇りをもちながら、大学等の研究開発マネジメントを支えている。そうした人材に対して、大学等は、適切に評価し、処遇することが求められる。

※ 本 WG における「研究開発マネジメント業務」とは、2013 年度に東京大学において策定されたスキル標準に示された、リサーチ・アドミニストレーター業務内容を基本としつつ、昨今、大学等における研究支援・研究推進支援業務として拡大している、研究セキュリティ/インテグリティや倫理的・法制度的社会的課題 (ELSI) への対応、スタートアップ支援、ファンドレイジング、オープンサイエンス、オープンアクセス対応等の業務を含めた用語として使用している。なお、当該業務の範囲は、本ワーキング・グループにおける議論を踏まえ、見直すことも想定している。